傘の気持ち

如月　子龍

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
傘の気持ち

【Ｎコード】
Ｎ０４２６Ｄ

【作者名】
如月　子龍

【あらすじ】
ごく普通の傘とそれを買った少女との話を傘の視点から見た話です。

（前書き）

物を大事にするって大切な事ですよね？

私は傘だ。
これと言って珍しいところもなく、大量生産された淡いピンクの傘だ。
今日他の仲間の傘たちと共に出荷された。
私はとある雑貨屋で売りに出された。
激しい夕立の夏の日に私は買われた。
私はこれからこの女性の下で働いていくのだ。少しでも濡れないように雨を受けるのが傘の役目である。
私は『頑張るぞ！』と決意を固めた。
しかし、彼女の家までが私の使命だったらしくその後はひっそりと傘立ての奥で埃をかぶるだけの毎日だった。

数ヶ月後。
私は久しぶりに外に出された。
桜咲く小春日和の暖かい日であった。
行き先は小学校で開かれるフリーマーケット。
手放されるのだ。
私の周りに置かれた他の物は次々に売れていった。
残された私はまた埃にまみれる生活に戻るのだと思った。
その時、一人の少女が私をじっと見つめていた。
新しい主人が決まった。
彼女に長く使われるようになって彼女気持ちを感じれるようになった。
彼女はあの時初めて貰ったお小遣いで初めてした買い物が私だったのだ。
それもあってか私を大事にしてくれた。
強風に煽られて骨が折れた時も新しい傘が買えるよりずっと高い額

を払って修理してくれた。大事な試験の日、満員電車から降りる際に私を落とした時も試験に間に合わなくなるのを覚悟で再び電車に飛び乗り私を見つけてくれた。
そんなに大事にしてもらってもやはり年月と共に私はだいぶ傷んできた。
台風が来た。
彼女はいつものように私を連れて出掛けた。
少しでも長く彼女と一緒にいたい私は有らん限りの力で耐えた。
その時、彼女の歩む先に今にも落ちそうな看板がある事に気付く。
このままでは彼女は下敷きになる。
私は意を決し風を受け彼女の手を離れた。
私を追いかけてくれと願い初めて自ら彼女の手を振り解いた。
彼女は私を追いかけ後戻りしてくれた。
その瞬間、大きな音と共に看板は落ちた。
彼女は助かった。
しかし私は道を走る車に引かれ傘である原型を留めない姿になっていた。
私は幸せだった。
彼女が無事だった事。
彼女の傘であれた事。
彼女と共に時間を過ごせた事。
全てが幸せであったと感じた。
彼女はバラバラになった私を見つめ涙を浮かべた。ひとつひとつ私のかけらを拾いながら
「助けてくれたんだね？ありがとう。」
と何度も何度も心の中で言ってくれた。
わたしも何度も何度も彼女にお礼を言った。
伝わるといいな…

私は今もまだ彼女の傘立ての中にいる。
人にはゴミにしか見えないだろうが傘として使えなくなった今でも
埃をかぶる事なく大事にされて幸せである。

（後書き）

使い捨てが当たり前の世の中。もっと感情を込めて愛着を持って接するとあなたも物の気持ちを感じるようになれるかも知れません。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0426d/

傘の気持ち

2010年10月28日02時02分発行